

開 議

○蒲生光男議長 おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員は、14番、大沼久議員の1名であります。よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

本日の会議は、配付しております議事日程第3号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○蒲生光男議長 日程第1、市政一般に関する質問を10日に引き続き行います。

それでは、順次ご指名いたします。

高橋孝夫議員の質問

○蒲生光男議長 順位6番、議席番号13番、高橋孝夫議員。

(13番高橋孝夫議員登壇)

○13番 高橋孝夫議員 おはようございます。

私は、市民生活の向上と誤りのない行財政運営を願いながら一般質問を行います。

通告しております2点について質問申し上げますので、率直で明快な答弁をいただきますようお願いをしておきたいと思っております。

質問の第1は、はなぞの・清水保育園の合築計画についてです。

本定例会に一般会計補正予算(第3号)が提案されており、その中で、はなぞの保育園清水

保育園統合改築保育所整備費補助金1億5,876万2,000円が計上されています。長井市社会福祉協議会が平成23年度に、はなぞの保育園、清水保育園を統合し、清水町浄配水場跡地に定員120名の保育園を整備するものとされています。

補助対象事業は、本体工事、特殊附帯工事、設計加算料、そしてはなぞの保育園解体撤去費で総額2億1,168万3,000円、そのうち山形県子ども安心基金特別対策事業1億702万9,000円の補助金と4,230万円の地方債、そして1,180万9,000円の一般財源をもって補助をするというものであります。

長井市がかかわる保育園建設は久しぶりの事業ということになりますし、今後数十年にわたって活用していくものであるということを考えれば、子供たちが安心して遊び、生活できるものにする、親も安心して預けることができる施設とすること、そして保育士の皆さんが働き勝手のよいものにしていくことが求められると思います。

その意味でも、後年度に悔いが残るものであってはならないと私は考えます。そこで、以下、項目に沿ってお伺いをいたします。

第1点目は、どういう保育園をつくろうと考えているのかについて、市長に伺います。

申し上げましたように、長井市にとっては大事な保育園建設ということになりますし、これまで経験したことのない0歳児から5歳児までの一貫保育を展開する施設ということになります。

さきの厚生委員会協議会で示された資料によりますと、敷地面積は2,700平方メートル、建築面積は、1階1,172.59平方メートル、2階228.56平方メートル、合計延べ床面積は1,401.15平方メートルであり、必要とされる屋外遊戯場の面積基準値396平方メートルもクリアするものということでもあります。

私は、示されている計画が国で定める基準を

+

クリアしていることは理解できても、示された場所での保育園で本当に伸び伸びと子供たちが遊び、生活する姿を思い浮かべることがなかなかできませんし、何よりも子供たちの笑顔あふれる姿を描くことができません。

今さら何をと言われるかもしれませんが、長井市にとって初めての保育園づくり、このことを市長はどういうふうに構想してこられたのか、お聞かせをいただきたいと思えます。

第2点目は、土地選定の問題について、市長に伺います。

私は、昨年12月定例会、そして本年3月定例会でもこの土地選定については質問をさせていただいておりますが、どうしても清水町浄配水場跡地とする土地選定については理解が進みません。

現地を見て感じるのは、狭い、そして使い勝手がよいとは言えないということです。

計画では2,700平方メートルという面積ですが、土地には水道施設も残るわけで、実質的には2,700平方メートルはないと考えなければなりません。加えて、未登記の土地もあることを考えれば、さらに狭くなると考えます。

私は、現時点で長井市の保育園と児童センターの敷地面積についてちょっと調べてみました。現状の清水保育園は1,073.25平方メートル、はなぞの保育園は2,061.16平方メートル、白ゆり保育園は1,173.93平方メートル、白山保育園は3,473.28平方メートルというものであります。

児童センターについては、致芳児童センターは1万2,185.9平方メートル、西根児童センターは1万966平方メートル、平野児童センターは3,010平方メートル、伊佐沢児童センターは5,759平方メートル、豊田児童センターは8,104.01平方メートルという面積となっています。

今回建設をする保育園は、定員120名の保育園となりますが、一番定員規模の多い保育園が

敷地面積では一番狭い保育園ということになるわけです。

また、長井市内にある保育園や児童センターの建物はすべて平家建てであります。市内にある2つの幼稚園は2階建てとなっておりますが、まれなケースと私はとらえています。

建設計画では2階建ての保育園となっておりますが、これは敷地面積の関係から2階建てとせざるを得ないのではないかと考えられます。同時に、プールも設置できない、職員駐車場もないなどという状況は、すべて敷地面積が狭いことによるものと私は考えます。

保育園の敷地内に水道施設が中途半端に残ってしまうこと、敷地の下を上水道の導水管が走っており、場合によってはその導水管を移動しなければならないかもしれないこと、敷地内には未登記の個人所有のままの土地が残っており、その解決がいつになるかわからないこと、そして解決がおくれれば当該の土地に建物がかからないよう建設しなければならないことなどを考えても、計画されている土地が最適とはとても考えられないというのが率直なとらえ方ではないかと私は思います。

特に水道施設があること、導水管等の水道の埋設物があることなどを考えれば、3月定例会でも申し上げましたが、この清水町浄配水場跡地は都市公園として緑地として活用を図ること、そして東側の水路沿いには通り抜け可能な通路整備を図っていくことこそが地域の要望に沿うものと私は考えます。

この土地に固執すべきではないと私は考えますが、改めて市長の考え方をお聞かせいただきたいと思えます。

第3点目は、これまで指摘されてきた課題はどう解決されているかについて、子育て支援課長に伺います。

清水町浄配水場跡地に保育園を建設するという計画が示されて以降、本会議でも所管の常任

委員会でもいろいろな課題や問題そして要望などが出されたと記憶をしています。今後の保育園運営のためには、提起されたいずれの課題も方向性を明らかにしておかなければならない課題と思いますので、それぞれ解決策を明確にさせていただきたいと思います。

1つは、朝夕の園児の送迎に係る交通渋滞への対応をどうするかについてです。120名定員の保育園の園児の送迎は、ほとんどが車で送迎ということになります。必然的に交通渋滞や危険が伴うことが考えられるわけですが、どう対応するお考えなのでしょうか。

2つは、職員の駐車場の確保をどうするかについてです。定員120名の保育園、しかも0歳児からの保育園ということになれば、職員数も多くなると考えなければなりません。その職員の駐車場の確保はどうされようとしておられるのでしょうか。現時点で決まったものがあれば、お示しをいただきたいと思います。

3つは、保育園の運動会や各種事業開催時の父母の車の駐車場確保等はどうなっているのかについてお聞かせをいただきたいと思います。今でも清水保育園の事業等では駐車場確保は大変です。旧丸三跡地を駐車場にしていますが、それでもすぐに満車になり、ケミコン山形が借りている駐車場を無断で使っているという状況です。

父母の数もふえるわけで、しっかりとした対応策が求められると考えますが、どうなっているのでしょうか。お聞かせをいただきたいと思います。

4つは、プールはどう確保するかについてです。清水保育園にはプールがありません。数年前までは宮プールにある幼児用プールで遊ぶことができましたが、閉鎖そして解体撤去以降は小出プールなどへ遠征しなければならないという状況が続いています。

保育園が新しくなれば、当然にしてプールは

設置されるものと思いますが、計画図にはありません。どのように考えておられるか、お聞かせをいただきたいと思います。

5つ目は、なぜ2階建てなのかということと、園児の安全策をどうしようと考えているかについて明らかにさせていただきたいと思います。

第4点目は、よりよい保育園をつくるために、考え直していくことも必要なのではないかについて、市長に伺います。

私はこれまでも、そして今回も、計画されている清水町浄配水場跡地ではない土地の選定こそ必要と申し上げてまいりました。数少ない市の土地、市有地にこだわって、将来に禍根を残すようなことがあってはならないと私は思います。土地の選定をもう一度やり直していくことが本当に問われていて求められていると私は思います。

ふさわしい土地と一緒に探していくことから再出発しませんか。このことが長井市の将来を担う子供たちの保育、大切な子供たちが遊び、学び、そして育ちの場所としての保育園建設の大事なポイントと私は考えます。

市長の見解を再度お聞かせをいただきたいと思います。

質問の第2は、パークゴルフ場の運営についてです。

定例会に議案第54号 指定管理者の指定についてとする議案が提案されています。具体的には山形県が置賜野川右岸に整備してきたパークゴルフ場を長井市が管理運営することとなり、長井市はその管理運営をのがわクラブという団体を指定管理者として指定をするというものであります。その際、指定管理者となる団体、のがわクラブに対して長井市が400万円の貸し付けを行うこと、のがわクラブは以後3年間で借り入れた400万円の返済を行うというものであります。

私は、長井市にもパークゴルフ場が開設され

ることを喜んで一人ですし、パークゴルフファンにとっては待ち望んでいた施設ということになると思います。期待の大きい施設であることを考えれば、今後持続可能なものとしていくことが何よりも求められていると私は思います。

しかし、私はこの間の指定管理者の指定と一般会計補正予算（第3号）で提案されている当該団体に対する貸付金400万円の考え方、あわせて当該団体から提出されている借入金返済計画には疑問が多いと感じます。よって、以下、教育長にお伺いいたします。

第1点は、これまでの動きについてです。県でパークゴルフ場を整備し、県から長井市がその管理運営をゆだねられることとなりますが、その時点での市の考え方はどう整理をされたのか、建設課の河川管理係と教育委員会の間ではどういったやりとりと整理があったのか、さらに県との間で河川敷地内の構築物等のあり方についてどういう確認がなされてきたのか、まずお聞かせをいただきたいと思います。

私は、このたびの指定管理者の指定と補正予算で提起をされている貸付金には3つの課題と心配があると感じています。

その1つが、通告している第2点目の行政側で整備する必要があると思われるかどうかという内容です。

申し上げますように、山形県でゴルフ場を整備し、さらにアクセス道路や駐車場等を整備をしてきました。それを今度は長井市が管理運営するということとなりますが、長井市は、この施設には何一つ整備を展開しないままに、これまで関係があったとされる団体に管理運営を指定管理者制度を使ってゆだねることになります。これはおかしいのではないかと私は感じます。

指定管理者制度を使って施設の管理運営をしていくという前段では、当該施設の整備などは

市が責任を持って展開をしていくことが不可欠と私は考えてきました。しかし、この間の経過を見ても、市が具体的に整備を図ってきたという事実は見ることはできません。

文教委員会協議会に示された資料の中の、施設整備会計収支予算書で示されている工事費や機械購入費、そしてコース用備品の整備等は本来は市が事前に準備し、整備する必要がある内容のものと考えますが、なぜ今回のこのような形になったのでしょうか。このままでは指定管理者制度活用はできないのではないかと私は考えますが、いかがでしょうか。

これまでどのように整理をされてきたのか、そして教育委員会ではどう判断をしてきたのか、お聞かせをいただきたいと思います。

第3点目は、指定管理者となる側も整理が必要ではないかについて伺います。先日、のがわクラブの規約と役員名簿をいただきました。当該クラブの会員はどれくらいおられるのかなどことは全くわかりません。そこで、まず現時点で当該組織の概要をお聞かせをいただきたいと思います。

同時に、パークゴルフ場を指定管理者制度を使って運営をしているところがあるわけですが、そういったところで実際に研修を積み、管理運営のノウハウや芝生などの育成管理技術について経験が積み重ねられている方がどれくらいおられるのかなどについて、具体的にお聞かせをいただきたいと思います。

次に、教育委員会と当該団体間での整理などについて伺います。私の理解では、指定管理者となる団体は管理する施設の基本的な整備や実際の運営に不可欠な用具や備品等の購入などを事前に行うことはないと考えてきました。しかし今回は、これらはすべて指定管理者となる団体の責任で行うということになっています。なぜ、こういうことになったのでしょうか。不思議で仕方がありません。教育委員会と指定管理

者となる団体との間でどういうやりとりがあったのか、整理してお聞かせをいただきたいと思っています。

同時に不思議なことは、管理運営する施設の基本的な整備や運営に必要な用具や備品等の購入に充てるために市から400万円を借り入れするという点です。

基本的なことから伺いますが、行政が公金を貸し出すには、それだけの理由と同時に、相手等に関する基準などがあると考えられますが、このたびの貸し付けは何に基づいて行おうとしておられるのか明らかにしていただきたいと思っています。

また、貸し付けの相手については、具体的に団体とするのか、団体内の個人となるのか。このたびの団体は法人格があるわけでもなく、登記もされていない任意の団体となるわけで、どのように整理をして執行されようと考えておられるのか、お聞かせをいただきたいと思っています。

さらに、計画では3年間で返済するとされていますが、万が一返済できないような事態となった場合はどうなされようと考えておられるのか、念のため、お聞かせをいただきたいと思っています。

第4点目の質問に入ります。私は、前段で申し上げました指定管理団体となるのがワクラブの収支予算書の説明書の内容に疑問を感じています。

説明書では、利用料収入で平成23年度は、1日の利用者25名掛ける30日掛ける5カ月イコール187万5,000円と見込み、24年度では、1日の利用者数40名掛ける30日掛ける7カ月で336万円と見込んでいます。25年度では、1日の利用者数を50名として420万円を見込んでいます。私は、この見込みは相当無理があると感じます。

先月27日に、置賜広域行政事務組合議会の全員協議会がありました。置賜広域行政事務組合では、平成21年8月から、広域交流拠点施設

「湯るっと」でパークゴルフ場も開設をしていることはご案内のとおりです。そして、この「湯るっと」の管理運営は指定管理者制度を導入していることもご案内のとおりです。

全員協議会の資料に、平成21年度と22年度のパークゴルフ場の利用者数が示されていまして、ご紹介をしたいと思います。それによりますと、平成21年度は、8月165名、9月564名、10月634名、11月302名、12月94名、合計1,769名ということです。22年度は、4月311名、5月409名、6月173名、7月151名、8月116名、9月179名、10月440名、11月344名、12月147名、合計2,270名ということです。そして、22年度のパークゴルフ場収入は88万5,700円ということでありました。

ほぼ置賜の中心部に位置し、置賜3市5町にPRをしているパークゴルフ場であっても、申し上げたような利用者数と収入ということになります。

のがワクラブが見込んだ平成23年度1カ月の利用者数は750名を超えますが、湯るっとではそれを越えた実績はないし、まして計画では、年度が経過をすれば利用者がふえるの見込んでいますが、湯るっとの場合は逆に減少しているわけです。私は、こういった実態から学ばなければならないと思います。

教育長に伺いますが、収支予算の説明書の内容について、教育委員会ではどのような裏づけをとられたのか、どう検証されたのか、調査はどう展開をされ、当該団体が見込んだ各種数値が妥当と判断をされたのか、お聞かせをいただきたいと思っています。

私は、このたびの計画は無理が多いし、まだまだ整備し、準備し、整理しなければならない課題が多いと率直に感じています。

先日、現地を見てまいりましたが、芝の状態など、まだまだ完全とは言えない状態ではないかと感じてまいりました。このような状態と申

+

し上げました内容を考えれば、今回の提案は一人撤回をされて、来年の4月から当該団体に指定管理者になっていただけるように、まず市が必要な整備や用具、備品の購入をきちんと行い、当該団体には、それまでの間、指定管理者団体としての各種準備をしていただくことが現時点の判断ではないかと私は考えますが、いかがでしょうか。

もちろん貸付金などは行わず、むしろ今後は指定管理料を上積みをして団体に負担をかけない方法を研究していくことも大事と考えますが、いかがでしょうか。あわせて見解と判断をお聞かせをいただきたいと思います。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 おはようございます。高橋孝夫議員のご質問にお答えいたします。

高橋議員の方からは、私へは1点、はなぞの・清水保育園の合築の計画についてということで3点ほどご質問をいただきました。

まず最初に、1点目の、どういう保育園をつくらうと考えているのかという点でございますが、これは高橋議員もご承知のとおり、平成12年の12月に策定されました長井市行財政改革推進実施計画に基づきまして、この中で、民間活力を導入し、多様な保育ニーズに迅速かつ効率的に対応するため、公設の保育園を民間に移管する計画がなされました。平成17年にはなぞの保育園、そして私になりまして平成19年度に清水保育園を長井市社会福祉協議会に移管しているという経過でございます。

今回の保育園の整備につきましては、まず1点目、移管先で現在の設置主体である社会福祉協議会から、園舎の老朽化に伴い、はなぞの保育園の修繕対応が特に深刻な状況となっており、速やかに統合保育園の整備を行いたいというご相談がございました。また一方で保護者の方か

らでございますが、0歳児から5歳児までの一貫保育できる保育園の整備が強く望まれておったと。これは、はなぞの保育園については0歳児から2歳児、そして清水保育園は3歳児から5歳児というふうになっておりますので、そうしますと、同じ家庭内で、上の子供を清水保育園、そして下の子供をはなぞの保育園ということで、同一家庭でありながら2カ所に子供を預けなきゃいけないという、そういったことから、何とか統合化を急いでいただきたいという要望が強くございました。

多くの子供たちが日中の長い時間を過ごす保育園が昭和56年の、現在の耐震基準前に建てられた建物であることから、やはり速やかに整備が必要というふうを考えまして、平成21年度に策定した長井市保育計画において、平成23年に統合改築するというように市として決定したところでございます。

社会福祉協議会におきましては、中長期的な保育園運営のあり方として適正規模による効率的な保育運営に努めていきたいとされておりまして、移管した経過を踏まえ、速やかに統合保育園の整備を支援していく必要があるというふうに判断したところでございます。

保育園の建設用地につきましては、はなぞの保育園、清水保育園を移管した際の経過あるいは県内他自治体の保育所移管への対応状況を参考にしましたところ、市が無償で貸与するというように決定いたしました。

用地の選定に当たりましては、整備に必要な敷地面積、市の遊休地の有効活用、保育所等の設置バランス、周辺環境などについて社会福祉協議会と十分な話し合いを行いまして、現在の候補地である清水町浄配水場跡地を建設用地と決定したものでございます。この際には、庁内に用地の検討委員会、選定委員会を設けまして、これは副市長を中心として、市に遊休地が、この規模としても5カ所ぐらいは考えられました

ので、その中からいろいろ検討したということでございます。

保育園の具体的な建設構想でございますが、設置主体で整備者である長井市社会福祉協議会が、0歳児から5歳児までの異年齢の園児が楽しく交流でき、安心して過ごせる保育園を目指し、計画されております。ことし3月に開催された社会福祉協議会の理事会で計画が承認され、県と協議の結果、今月5月に県の方からも採択されてるという状況でございます。

どういった保育園をつくらうと考えているかの質問につきましては、整備主体は長井市社会福祉協議会でありますので、市としては社会福祉協議会の意向を尊重し、計画が速やかに具現化できるように土地の選定や財政支援、地区や県などの関係者との調整を進めてきたところでございます。

次に、土地選定の考え方でございますけれども、高橋議員からは、この土地に固執すべきではないというふうに考えますということでございましたが、これは議員からも詳しく用地の面積ですね、ほかの保育園あるいは市の児童センターの敷地については、ご質問の中でありましたので省略させていただきますが、当初、定員は120名とする計画であったんですが、昨今の、特にリーマンショック以降、共稼ぎの保護者の皆様から、やはり0歳児でも保育園として預けないと、なかなか会社の理解が得られないということから保育園の需要がふえるであろうということから、市として要望したことは、120名を150名までふやしていただきたいと。ですから、待機児童をとにかく避けたいということでございましたが、その後、市内の学校法人の方から、30名から50名程度の保育園を設置したい旨の相談がありましたので、そちらの方に市としてもいろいろ支援させていただくということで、今回120名にしたわけでございます。

そういった意味で、確かに広ければ広いほど

いいわけでございますが、現在の土地でも私は十分な面積を確保できるというふうに考えているところでございます。

また、土地の選定については、市で無償貸与するという決断をしたわけでございますが、高橋議員もご案内のように、長井市の土地開発公社が不良債権として持っておった約27億円の債務の整理が、ようやく昨年3月に終了したばかりであります。その中には当然、遊休の市有地がたくさんあるわけです。

このたび、本当は社会福祉協議会としては、清水町の今回の土地以外に自分たちでこの場所がいいということで選定した土地がございました。しかし、例えば地域のバランス、特に線路から西側に保育園が今、はなぞのと清水だけでありますので、やはり西側に望ましいということと、それから北部振興協議会の方からなどいろいろなご要望がございまして、やっぱり市のそういった特に子供たちの声が聞こえる、そういった町としての活気、活力といいますか、そういったもののバランスから北側がいいというふうに私は判断して、最終的には水道事業所ということになったんですが、結果としてあります。例えば水道事業所としては、やはり何とか人員を削ったり、さまざまな経営の努力をしながら水道料の値上げをしないように頑張ってるわけでございますが、そういったことから、最初からありきじゃなくて、結果としては清水町の地区で、これをご理解いただければ、その土地が一番望ましいなと最終的には私も判断したところでございます。

ちょっと長々と恐縮でございますが、昭和30年代後半から40年、50年代に整備した市のさまざまな公共施設、例えばこの庁舎もそうですが、文化会館あるいは長井病院、そして何よりも小中学校、中学校の耐震化というのはまだこれから診断をすると。そういった施設がもう待ったなしで、ここ10年から15年の間に恐ら

+

く整備せざるを得ないだろうと。これは耐震化の意味からであります。

そういったときに、できるだけ、やっぱり市の土地を有効に活用しなきゃいけない。今年度からはできませんが、来年度あたりから、ぜひ市の遊休の土地をできるだけいろんな形で、例えば民間に活用いただくような住宅地とか、そういったことも考えておりますし、あるいは第1日目の赤間議員からの質問でもございましたように、酒田市のように企業用地、工場の用地として、そういったところも安価に、あるいは無償で提供するということも検討したいと。

そういったことで、長井市の財政厳しい状況の中で、その土地をやはり生かすべきだという考え方が私は基本にありますので、今回は清水町の土地が結果としては最適だったというふうに判断してるところでございます。

最後に、3点目のよりよい保育園をつくるために考え直すことも必要なのではないかとこのことでございます。

高橋議員がおっしゃることもよくわかりますが、長井市としては、より保護者の、あるいは子供たちにとって一番いい保育園あるいは運営ということで社会福祉協議会に移管をしたわけでありまして、社会福祉協議会のやっぱり意向を尊重したいということで、よりよい保育園をつくるために考え直すことも必要ではないかとこのことでございますけれども、社会福祉協議会の計画に基づいて一刻も早く新たな保育園を建設することが一番いい判断であろうと。ベストとは言えないかもしれませんが、土地についても総合的に判断した場合、清水町の用地が最適だと。

また後で子育て支援課長の方からもありますが、あの周りにはたくさん職員駐車場の、あるいは来園者、保護者用の駐車場を確保できる余地が十分にあると。また道路も広くて、今までの清水保育園あるいははなぞの保育園から比べ

れば、保護者も送迎が十分安全が確保できると、そういうふうに判断しておりますので、ぜひ高橋議員からのご理解を賜りたいと思います。以上でございます。

○蒲生光男議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 おはようございます。高橋議員の方からはパークゴルフ場の運営について、4点ほどご質問がありましたので、順次お答えをしたいと思います。

1点目の、これまでの動きについて、どういうふうに進捗してきたかというご質問でございますが、パークゴルフ愛好者の皆さんが長年待ち望んでおりました、そして県に対して要望してこられたパークゴルフ場が、平県議のお力添えなどもあって平成22年4月、県事業により市の建設課が所管で野川右岸に完成しました。

完成後、平成22年度のパークゴルフ場の維持管理については、長井市パークゴルフ協会の会員がボランティアによって精力的に芝刈り、除草などを実施してこられております。

今後の管理運営が県から市に移管されることに伴い、建設課の方と教育委員会で打ち合わせを行って、生涯スポーツの振興、またパークゴルフの普及等を考慮して、体育施設として管理運営することに決定して、3月議会で議決をいただいたところです。

また、管理運営について業務の一部委託、指定管理者制度の導入を検討したところでしたが、施設運営面でのサービス向上による利用者の利便性の向上または経費の削減、効率的な活用ができるということから、指定管理者制度導入を決定しました。

河川敷内の構築物等のあり方につきましては、洪水を考慮し、基礎のある建物は設置できず、移動可能な簡易なもの、例えば簡易トイレ、管理小屋程度であれば設置可能、または樹木であれば、低木であれば植樹は可能であると建設課を通じて聞いております。

2番目の、行政側で整備する必要があると思われるがどうかということですが、これまでの体育施設の設備、備品等については、行政側が設置、整備してきていますが、パークゴルフ場については数年間の利用収入で管理運営費プラス設備費や備品の整備費用も十分に見込めると判断し、指定管理者がパークゴルフ場を管理運営していく上で必要とする設備、備品も含めて指定管理者側が整備することにしたところです。

3番目の、指定管理者となる側も整理が必要でないかというご質問ですが、のがわクラブの会員については、さきの文教委員会協議会に提出いたしました事業計画書によりますと、110名の会員が登録をされております。会員数は徐々にふえつつあるということをお聞きしています。

組織の概要につきましては、理事長、副理事長、理事8名、内務局長兼務1名、監事2名、事務局1名となっています。

また、賛助会員として本クラブに賛同する個人及び団体の入会もできています。

芝生の育成管理につきましては、会員の中に白鷹町のパレス松風や南陽グリーンヒルパークゴルフ場の管理指導に携わっている人が1名、芝刈りやその管理に精通している人が1名、全国のパークゴルフ場の設計に携わっている人もいるということですし、山形県パークゴルフ協会の指導部長で公認コースを選定する人も会員としておりますので、パークゴルフ場の管理に関するノウハウは十分な体制であり、しっかりとした管理をしていただけるものと思っています。

また、経営面についても、民間で厳しい経営を担っている人、また担ってきた人がいるということでしたので、この辺も大丈夫なのではないかなというふうに考えているところです。

このたびのパークゴルフ場施設設備整備資金400万円の貸し付けにつきましては、のがわク

ラブの方から要請があったものであって、のがわクラブに貸し付けをするものです。のがわクラブは、このたびの指定管理者の指定を受ける上で、より公正でより多くの市民の皆さんがパークゴルフ場を利用できるように、長井パークゴルフ協会会員と会員以外の方により組織された団体であり、指定管理者候補選定委員会で選定された団体であることから、地方財務実務提要に基づき、貸し付けをするものです。

万が一、3年間で返済できない場合はどうするかということについては、3年間の分割返済でお貸しするものですから、いかなる方法になるか今のところわかりませんが、原則3年間で返済をしていただけるものと考えています。

4番目の、制度も含めて整理しなければならぬ課題が多いと感じるがというご質問ですが、のがわクラブが指定管理者の指定を受けた場合の事業計画や取り組みをお聞きし、また近隣のパークゴルフ場の利用者数、利用収入を調査し、のがわクラブが提示した収支予算書で管理運営することができるというふうに判断をしました。

のがわクラブが400万円を借入れ、パークゴルフ場の設備や備品の整備をすることは大きな投資になりますが、パークゴルフ場をスタートするに当たって、中途半端な整備では多くの市民や市外のパークゴルフ愛好者を長井市パークゴルフ場に引きつけることはできない、会員増を図ることはできないということも含め、このような投資になったものと思っています。

これは、指定管理者としての経営的な考えのもとにパークゴルフ人口の増加、それに伴う利用料収入を見込んでのものであり、長期的に見た場合は十分に対応できるものであるというふうに考えています。

議員から紹介のありました湯るっつきましては、詳しくはわかりませんが、聞くところによりますと、整備された芝は種子をまい

+

た芝で、昨年猛暑に見舞われ、雨量が少なかったためにグリーン等がぼろぼろになり、芝の張りかえをしなければならぬ状態となり、カップをグリーンわきに切らざるを得なかったことなどでコース環境が思わしくなく、利用者の足が遠のいたようです。施設の環境整備、特にパークゴルフ場は芝生の管理が重要であるというように感じております。

当市のゴルフ場は張り芝で、フェアウエーはまだ完全ではありませんが、グリーンはしっかり根づいておりますし、管理に精通した方、そして熱意のある会員の皆さんに管理運営していただきますので、これからすばらしいパークゴルフ場になると思いますし、いろいろアイデアを出していただき、事業を展開することによって多くの皆さんに来場いただけるとともに、経済的効果も見込まれるものと思っております。

また、指定管理者による管理であっても、市は公の施設の設置者として市民に対し施設の責任を負わなければなりませんので、課題や問題が生じた場合は随時、指定管理者と協議をしながら、より多くの市民、パークゴルフ愛好者の皆さんに利用いただける施設となるように進めてまいりたいと考えています。

のがわクラブは、長井パークゴルフ協会の皆さんが待ち望んだパークゴルフ場の開設指定管理者ですので、よろしくご理解をお願いしたいというふうに思っています。

最後に、来年度、平成24年度からの指定管理者を導入してはどうかというお話ですが、長井市パークゴルフ協会の方では、県の方の要望をする前提で、自分たちが管理するというそういう前提のもとで要望しているということですが、県の方から直接、市を通さずに民間団体に移管するという事はできないということで、市が入って、のがわクラブの方に再委託というような形になっていますし、期間を置くとパークゴルフ場が草原になりはしないかというそうい

う心配もあって、できたらすぐに初年度から指定管理者を導入したい、引き受けたいという考えのようです。以上です。

○蒲生光男議長 種村正一子育て支援課長。

○種村正一子育て支援課長 高橋議員のご質問にお答えいたします。

はなぞの保育園、清水保育園の合築計画の3番目、これまで指摘されてきた課題はどう解決されたかについてでございます。

質問いただきました内容につきましては、整備主体である社会福祉協議会が中心となり検討している課題でございますが、計画の話し合いの中で確認、調整を行っている内容についてお答えを申し上げます。

1点目の朝夕の園児の送迎に係る交通渋滞の対応についてでございます。建設予定地の清水町浄配水場跡地は、幹線道路である市道平山境町線に面しており、朝夕は通勤の車で交通量が多くなると見込まれますが、園児の送迎の車は通勤の車と反対方向の車両が多く、路幅も広いことから、交通渋滞を来すようなことは比較的少ないというふうに考えております。

また、社会福祉協議会においては、園児の朝の送迎について7時半から8時半までの1時間に集中することを見込んでおり、園内での混雑を緩和するため、玄関前の園庭を一方通行にするなどの工夫を行うとともに、駐車スペースをできるだけ多く確保し、混雑解消と安全対策について最大限留意しながら現在、基本設計の検討を行っているところでございます。

2点目の職員の駐車場の確保についてでございますが、こちらも社会福祉協議会で建設用地の近くに職員駐車場として十分な広さの土地を候補地として考えており、今6月定例会後に土地の確保に向け、準備を進めていく予定でございます。

3点目の各種事業開催時の父母等の駐車場の確保についてでございますが、こちらにつきま

しても職員駐車場と同様に、建設用地の近くに別途、保護者用の駐車場の確保に向け検討していただいております。

また、土曜、日曜等の行事に際しては、教育委員会の駐車場も調整を図りながら利用できるというふうに考えております。

4点目のプールはどう確保するかについてでございますが、現在の保育園の整備計画では固定式のプールの設置は予定してございません。夏場に園庭内に組み立て式のプールを設置し、子供たちに水遊びを楽しんでいただきたいというふうに考えております。

5点目の、なぜ2階建てなのかと、園児の安全対策をどのように考えているかについてでございますが、園舎については2階建てとなりますが、園児がふだん生活する場はすべて1階に配置される予定となっており、災害時の避難対応なども迅速に対応できると考えています。

2階については会議室、職員の休養室、物置等で子供たちが利用することはなく、園児の安全対策に特に問題ない設計と考えております。

以上でございます。

○蒲生光男議長 13番、高橋孝夫議員。

○13番 高橋孝夫議員 それぞれ答弁をいただきましてありがとうございます。

保育園の合築の関係については予算委員会でもたまたまさせていただきたいと思っておりますから、パークゴルフ場の関係でお聞かせをいただきたいと思っております。

私は、教育長のこの答弁を聞いて、随分と指定管理者となる団体の言うこととか主張することを聞いておられるのだなというふうに受けとめました。そういうことが本当に、じゃあ大丈夫なのかという質問を私は申し上げております。置賜で置広でやってるところが一番身近なパークゴルフ場であって指定管理者なんですよ。指定管理者は、ここにプロがいるわけですよ。そこでやって、さっき申し上げたような利

用状況と収入状況しかないのです。3年目では年間1万人を超える利用者があるというのが、その収支計画書なわけですよ。だけど、そんなこと、とても考えられないというのが率直に私、感じるころなんですよ。

私も湯るっつと行ってパークゴルフやってきました。それで感じてるんです。同じことにならねえなだか。その湯るっつとよりも、ずっとこっちが、もう何倍も利用者が多くなるなんていう計算は、どうしたって考えられないわけですよ。だけど、それがなければ返済できないわけだよ、そういう計画になってるから。これは、はなから無理があるんじゃないですかというふうに言ってるんです。そこはどうですか。本当に大丈夫なんですか。これは見込み違いだったというふうにならないんですよ。どうですか。

○蒲生光男議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 さっきもお答えしていますけれども、文教常任委員会協議会に出した資料の中の事業計画書で団体の概要とありますが、会員数が110名になっています。徐々にふえつつあるということですので、私なりの例えばの計算ですけども、120名の会員、または平成24年度は150名、平成25年度は200名の収支予算書の計画にはなっていますけれども、年間約7カ月ですから210日のオープン日があります。雨の日なんかも含めれば150日とか160日ぐらいのオープン日になるんだと思っておりますけれども、1人の方が40回使えば、例えば150人の会員がいるとすれば延べで6,000人の利用者になりますし、会員以外の方が1日10回使ったとしても、やっぱり2,000名近い数になるんじゃないか。私、実際パークゴルフするわけでありませんで、どのぐらいのパークゴルフの人口がおられるのかわかりませんが、千代田の湯るっつと単純に比べることはできないのかなと。長井市のパークゴルフ場は市街地にありますから、女性の方で車、運転できない方も自転車で気軽に来られ

+

るといふ、そういう地の利というのもある意味はあるのかもしれませんが、そういう面で、のがわクラブがいろいろ周辺の状況を見たりしながら積算した、そういう人数というふうにとらえているところです。

○蒲生光男議長 13番、高橋孝夫議員。

○13番 高橋孝夫議員 どう見たって、これ客観的に見てよ、これが妥当だなんていう答えは出てこないんですよ。この計算上でいくと、23年度は年間3,750人来ることになるわけで、次の年は8,400人、25年度は何と1万500人になるのよ。もうそんなことにならない。これ、そういうふうにしたい、そうなければいいという思いはいいよ。だけど、実際そうはならないわけですよ。

湯るつとの場合だって、もっと多い人数でというふうには踏んだと思う。だけど、結果はこういう状態よ。年を経るごとについていうけど、まだ3年目だけでも、減ってるわけです、逆に。そういうのをちゃんと私は客観的に見詰めんなね、そこから学ばんなねと言うんです。

自分たちが運営をやりたいというところのその計算持ってきて、ほら大丈夫だなんて判断は、そういうところを見て初めて判断できるわけでしょう。違いますか。これをどう考えたって、この計算ではいけないし、いけないということは、いろんなことで、これからトラブルしてくるということなんですよ。

私は、せっかくこのパークゴルフ場をつくって安定的に、それも持続的に運営をしていかなければならないというときに、これは絶対こういうのはあってはならないという問題意識から言ってるんです。これはもっと精査しなければならないんじゃないですか。

○蒲生光男議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 その利用者数の延べ人数に関しては私、さっき申し上げたように、何か実現不可能な数字というふうにはとらえていません。

やっぱり予想値であり、期待値ではありますけれども、会員の増員、または会員がいかに利用頻度を増すか、それにきめ細やかなサービスしながら、せっかく市外から来た、または県外から来たパークゴルフ愛好者に対して、もう1回来てみたいなというようなパークゴルフ場にしていけるか。そういう面では、やっぱりのがわクラブというのは、パークゴルフを自分たちもやりながら、芝の状態がどうであればいいのか、またはどういう接待をすればいいのか、どういうサービスが必要なのか、そういうことを恐らくわかっていらっしゃる方々の会というふうに思いますので、そういう面での工夫、努力というのは今後もなさっていただければいいのかなというふうに感じています。

○蒲生光男議長 13番、高橋孝夫議員。

○13番 高橋孝夫議員 恐らくやれるでしょうなんていうことでスタートするわけにはいかないんです。

これは常任委員会でも議論することになりますけれど、もう少しわかりやすい、私どもが判断できる内容の説明をちゃんと常任委員会でもやってもらいたい、そのことだけ申し上げて質問を終わります。ありがとうございました。

我妻 昇議員の質問

○蒲生光男議長 次に、順位7番、議席番号7番、我妻 昇議員。

(7番我妻 昇議員登壇)

○7番 我妻 昇議員 よろしくお願いを申し上げます。

今定例会は統一地方選挙が終わって初めての定例会であります、以前にも増して活発な議論が展開される様相を呈しております。それはなぜかというふうに考えますと、一言で言えば、